

研究の概要

1 研究テーマ

生きて働く知識・技能を身に付けさせる外国語の授業づくり
～自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～

○テーマ・副題について

副題の児童像の設定理由

学習に興味があるが、間違えや表現方法に不安を感じて、人に思いを伝えることに自信の無さが見られるため。

自信のなさから思いを伝えることをためらうことは、学習上の課題であるとともに、将来社会に出たときにも課題となる。なぜなら、子供たちが社会の中心として活躍する未来は「予測困難な時代(平成 29 年告示学習指導要領)」と言われており、飛躍的に進歩を遂げるAIにはできない人間としての強みを備えることが求められるからである。その人間の強みの一つに、コミュニケーション力がある。コミュニケーション力は、状況を判断したり、目的に応じた答えを考えたりする力である。これは思考できるようになったとされるAIにもできないことであり、まさに人間の強み、今後の社会を生き抜くうえで必要な力だといえる。

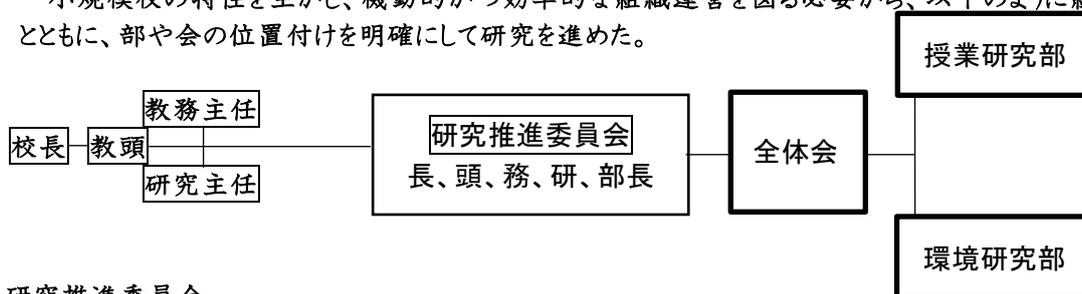
子供たちがコミュニケーション力を高めるために、本校では自信のもととなる知識や技能の習得が必要だと考えた。社会に出ても活用できる「生きて働く知識・技能」が習得するには、どんな学習過程が必要なのか。手立ては何か。以上のことを外国語・外国語活動をもとにした授業づくりで明らかにしていくことにした。

2 研究の仮説

- ① 学習過程を統一した授業を実現すれば、児童は安心して取組、進んでコミュニケーションを図ろうとするであろう。
- ② 目的・場所・状況を設定した生活に即した対話的な活動(アクティビティ)を取り入れれば、児童は進んでコミュニケーションを図るであろう。

3 研究組織

小規模校の特性を生かし、機動的かつ効率的な組織運営を図る必要から、以下のように組織を体系化するとともに、部や会の位置付けを明確にして研究を進めた。



・研究推進委員会

学校長の指導助言のもと、研究の方向性、研究授業の日程、各部・学年の進捗状況などを確認し、全体会で共通理解を深めるために検討が必要なことを協議する会。

・全体会

研究推進委員会で検討した内容について、協議・共通理解を図ったり、授業研究会後の研究協議を行ったりして、教職員全体で研究の方向性を確認する会。

・各部

① 授業研究部

研究テーマや研究仮説に基づいて、外国語の授業に関する以下の事を行う。

- ・学習展開の作成
- ・評価の在り方の検討
- ・授業に必要な教材のアイデアを練る(環境研究部と連携)。

② 環境研究部

研究テーマや研究仮説に基づいて、外国語の学習環境に関する以下の事を行う。

- ・授業に必要な教材を作成する(授業研究部と連携)
- ・国際理解ルームの充実(外国語、国際理解の視点も含めて)
- ・外国語に慣れ親しむ校内環境の充実(外国語による放送、あいさつ、他)